

雲上蒼天

始業式 式辞

先日の星野富弘さんの詩を覚えている人は少ないと思うので確認します。「辛いという字は、幸せの花の蕾のようなもの」という内容でした。

思えば、「辛い」という言葉の感じ方・受け取り方は、人それぞれ。

例えば、自分の言葉で相手が傷ついてしまったとする。そのとき、「自分はこの人を傷つけて辛い。」と感じ、自分の行いに辛さや苦しさを感じる人もいれば、「だって〇〇が悪い」と自分は悪くないと考え、辛さを感じない人もいる。

その出来事を「自分事」と捉えられるか、「他人事」と考えるかで、人生は大きく変わってくるはずです。

今、私は校長をしていますが、勉強はあまり得意ではありませんでした。

高校入試の得点は300点。大学も、〇〇大学という、君たちが聞いたことがない大学です。そういう私ですから、この仕事に就いたとき、まっさきに壁にぶち当たりました。他の先生とは、持っていた能力や知識が違うのです。

例えば、仕事一つも、覚えるまでに時間がかかる。他の先生が授業の準備を1時間で終わるところが、私は2～3時間かかるわけです。また、部活動指導も同じでした。自分は本当に下手くそで技術がない。何をどうすれば良いか、どうすればチームが強くなるのか、まったく分かりませんでした。当時の生徒には本当に迷惑をかけました。

劣等感に襲われ、それまでの自分の生活を悔やみました。もっと勉強して自分の能力を上げておけば良かったとか、知識を身に付ければ良かったとか。かなりきつい毎日が何年も何年も続きました。

でも、その「目の前にある壁」に向かって何度も何度も試行錯誤をしているうち、「失敗」を繰り返し、次こそはと挑戦を繰り返しているうちに、自分の中の選択肢はどんどん増えていきました。

「こうしてダメなら、こっちを試そう」とか、「うまくいったから次も同じようにしたら今度はまったくダメだった。どうしようか。」とか。

たとえ他の人が途方に暮れて心が折れる状況になっても、試行錯誤を繰り返せる力、自分で道を切り開く力を身に付けることができた。

人生を振り返ると、失敗だらけで本当にたくさんの人たちに迷惑をかけ続けてきたと思っていますが、そのたくさんの失敗があったからこそ、今の自分があるのだと、今、君たちに自信をもって伝えることができます。

実は、君たちの学校生活も同じ。失敗を自分事として捉え、辛さを抱え、その思いを次に生かそうとしているかどうか。それが大きな鍵です。

それは、私と同じような「壁」が君の前に立ちふさがっているということ。

「では、どうするか。」それを考え、チャレンジすることがとても大事です。

簡単なところで、定期テストがあります。自分の思うような点数が取れなか

ったとき、次のテストでその失敗を生かすことができているだろうか。また、授業を受けていて、今日は集中できなかった、ぼんやりしてしまった、という反省がある人。君はいつも同じ後悔を繰り返していないだろうか。

もし、今も同じ失敗を抱えているとしたら、2学期の始まる今がチャンスです。前日の家での生活を振り返ってみる。それでダメなら、予習をしたらどうだろうと試してみる。ぼんやりしていて分からなかった範囲を自学ノートで先生に質問してみる。失敗を次に生かす方法は、本当に様々です。

ここで大事なのが、いつも私が君たちに言っている「諦めない」「他の人と比べない」です。

諦めてしまったら、失敗は失敗と呼べない過去の思い出だけになる。

他の人と比べてしまったら、「持つ必要のない優越感」は挑戦する心をしばませ、「抱く必要のない劣等感」は自分の心を折ってしまいます。

他の人が1時間で終わるところを自分が2時間かかっても良い、何度も何度も同じ失敗を繰り返して良い。失敗を心から離さず、辛さを抱えて次に生かそうとすればいいのです。諦めなければ、その経験はいつかどこかの場面で生かされ、自分の力になるときが必ず来ます。

そして、辛い気持ちに立ち向かえば向かうほど、自分の心はどんどん強くなる。何度も叩かれ、鍛えられ、他の国に例を見ない美しさと強さ、しなやかさを兼ね備えた我が国が誇る日本刀のごとく、君の心はしなやかに、光り輝くようになるのです。

今、私は自分にそれほど才能に恵まれず、高い能力を持っていなくて本当によかったと思っています。自信をもって、「辛い毎日を繰り返してきたからこそ、今の幸せにたどり着いた」と心から思うことができるのです。

それはちょうど、この10日間、ずっと曇りや雨が続いた学校に、久しぶりの日差しを与えてくれた太陽に感謝し、この恵みを受ける幸せを感じる気持ちと同じかもしれません。

人生の早いうちに壁にぶつかっておけば、それを克服するにはどうすれば良いだろうと本気で考えることができる。頑張ることができる。辛い気持ちを自分に向け、自分がなんとかしなければならぬと、強い心を持つことができる。

今日から2学期が始まります。現に、今も私は失敗だらけ。後悔だらけの辛い毎日を送っています。私の強みは、「この苦しい毎日を繰り返していけば、いつか今の失敗に感謝できるようになる」と知っていること。

さあ、今年度もあと半年です。自分に能力がないと嘆いている人、特に私は同志として応援します。このことを、この始業式という日に、君たちと分かち合いたいと思っていました。同じ仲間として、一緒に、目の前の壁、毎日の失敗、辛い気持ちに立ち向かっていきましょう。